OMC News 大阪ムービーサークル
OMC事務局　〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
広報編集局　〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
http://www6.ocn.ne.jp/~nakabc/omc-news/kaiho.htm

平成２７年４月（2015年）No.５９２

各地の映像クラブの現状、二極化の兆し

会長　合原 一夫

日本を縦断する映像発表会等で全国各地のアマチュア映像関係者と話し合う機会がありますが、この世界も歴史的にみて８ミリ時代とは、随分と変わってきたな、という感じがします。８ミリ全盛時代は、８ミリ映画をつくる人は皆若かったし、映画を作るという意気込みがありました。一つは、各地の行政がからんで８ミリ映画コンテストが行われており、それに応募し入賞することが目標の一つでした。大阪でも和歌山でも実施されていました。出品し受賞することがそれほど難しくありませんでした。

また、企業が主催したコンテストも華やかでした。現在はどうでしょうか。行政が関わるコンテストは今、篠山市、福岡市ぐらいでしょうか。

８ミリ時代から始まった映像クラブは、どこも高齢化を抱え、親睦会みたいなクラブが多くなり、やがて消えゆく運命のクラブが各地に見られる状態になってきています。世代交代がうまくいかず、古くからの重鎮たちの高齢化についていかなくなっているのです。

一方、ビデオから始めたクラブで、リーダーがしっかり会の目標を立て数少なくなってはいるが、全国コン受賞を一つの目標にして作品づくりをしているクラブは、女性も入っていて活発に活動されているクラブもあります。全国コン入賞を果たすには、それなりにテーマの主意を明確にして絞りこまないといけないのですが、年を取ってくるとコンテストに応募しようという意欲も衰えてくるのも事実です。８ミリ時代からのクラブも活発に活動しているクラブもあり、そういうクラブは、いい作品を目ざしている人が中心的に活動しているところです。私達のこの大阪ムービーサークルも、８ミリ時代からの古いクラブですが、まだ活発に活動している現状にあり、会員諸氏に感謝すると共に今後益々の発展を期待しています。

４月例会のお知らせ

４月例会は第４土曜２５日午後６時より難波市民学習センターにて開催します。月一回の集いです。楽しいひと時を皆さんと共に過ごしましょう。気候も暖かくなってきました。どうぞお越し下さい。

撮影会のレポート

今年のOMC撮影会は初日の4月4日は曇時々晴れで申し分なし、この日は室津の町並み、漁港を撮影し、午後3時半から宵宮で「(古歌の) 棹の歌」が拝殿（飛び拝殿というそうです）で奉納され撮影しました。翌日の5日の本番を期待しましたが、生憎の雨に祟られました。そのために小五月祭りの見所「みこし渡御」は中止、賀茂神社で若い女性の「棹の歌」が奉納されました。しかし一番期待の みこし渡御が中止になって誠に残念でした。参加者は 14名。作品の公開審査は6月例会日の午後1時からです。参加者は全員、未参加の会員の方々も多数出席をお願いします。

◆新入会員の紹介

赤澤與三郎さん、〒570-0047　守口市寺方元町1-7-3　携帯 090-8389-1894
よろしくお願いいたします。

例会のレポート

3月例会は28日18時より開催。桜だよりもボツボツと出てきて暖かくなってきました。今月も23名の出席と14本の作品が出品され時間一杯の盛会でした。公開映写会出品候補作品もあり内容的にも良かったです。

司会、進藤氏、書記、河合氏、上映係に井上氏、映像記録、江村氏、受付兼照明係、森下、宮崎の両氏、掲示、紙本氏の各氏の担当で会を進行しました。

◆出席者：有村、井上、上田、江村、岡本、蟹江、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、高瀬、野田、華岡、前田、宮崎、森口、森田、森下、山本、吉村（敬称略）及び新入会員赤澤氏の23名と作品本数　14本でした。

◆上映作品（今月の記録と講評担当：河合世話役です）

1．私の八ミリ行脚(BD)
有村　博　　4分12秒

「昭和37年から始って、平成3年ビデオに引き継がれるまでの 28 年間に亘る、作者の八ミリ人生が語られています。「東海道新幹線開通と万国博の開催、名神、東名の高速道路が開通して、躍進する日本の姿を紹介、そして人間の月面着陸によって、新しい科学の時代の夜明けが予感される時代でした。その間に184本の作品を作られたとか。進歩するカメラを追っかけ、高価なカラーフィルム代に悩まれた時もあったのではないかと推察されますが、それを乗り越え右肩上がりの良き時代の記録が満載されていました。

2．湖北にて(BD)
前田　茂夫　　6分30秒

まだ雪がたっぷりの比良山系や伊吹山を背景に、早春の北琵琶湖の風景が展開します。(3 月の撮影だそうです)。とは言っても湖畔には葦の枯れ枝が残り、芽吹きにはまだまだ早いと言った時期。主役はどうしても水鳥ということになりますが、名物の渡り鳥は北帰行をすませたようで、種類も数も少なく残念なことでした。

3．早春の神社と道頓堀ウオーク
吉村　健一　　9分50秒

作者は 1~3 月連続出品というご精進ぶりで、カット繋ぎも、ナレーションも、BGM処理もものにされたようです。そこで今後はレベルを少し上げて、「物語のある作品作り」を心掛けられたら如何でしょう。

とはいっても、難しいことを申しあげる訳ではありません。ハイキングでは事前に少し下調べをして、「○○を重点的に撮ろう」とか、「△△では同行の仲間の喜びの風景や意見なども撮影しておこう」とかの予定を立てて参加します。訪れる神社仏閣によっては関連のあるものがあって、思わぬ物語りが出来ることもあります。所謂「シナリオ作り」です。歩き出してみると思わぬ場面に出くわしますが、役に立ちそうな場面はすかさず撮影して、予定のシナリオに加えます。シナリオといっても、別にノートに書き留めておく訳ではなく、心に留めておけば良いのです。最後に自分の感じたことを中心に纏めると、出来上がりです。一度試してみて下さい。

4．ペルセポリス遺跡(イラン共和国)
華岡　汪　　11分20秒

作者は今回、紀元前520年に建設が開始され、同331年のアレキサンドロス大王の東征によって破壊されるまでの間、ペルシャ帝国の首都だった古都.ペルセポリス遺跡を訪ねられました。広大な土地に、様々な石像建築や像が略完全な姿で保存されています。紀元前500年といえば、インド大陸では釈迦が生まれて仏教を説き始めたころです。仏像は未だ生まれてなくて、5~600年たって、ガンダーラ(今のパキスタン)で、また時を同じくしてインド西部のマトーラ

で出現しました。一方、同じ紀元前500年ころ、中国大陸では孔子が誕生、彼が説いた儒教は仏教とよく似ていて、死後弟子達が長年かかって「論語」にまとめあげて、今なお世界に大きな影響を与えています。

となると、ペルシャでは何故あの文化が断絶してしまったのか、かってのペルシャ文化を今のイランの人達はどう考えているのかなどと、まだまだ知りたいことが沸き上ってきます。

５．男の大祭り

上田　吉巳　　4分30秒

「男の大祭り」とは、「岸和田のだんじり祭り」のこと。作詞・作曲の岩出和也は岸和田出身の歌手、歌謡ビデオに仕立てたのは、岸和田の上田さんとあって、「迫力のある遣り回し」を充分堪能させて頂きました。ただ、歌手の勝負どころで「遣り回しの屋根を飛ぶ大工方の表情」、「地を這うようにして鑓回しを制御する男達の形相」の「アップ」が 2~3 カットあればと思ったのは、私の我儘でしょうか。

６．新野の雪祭り抄

河合　源七郎　　14分36秒

柳田国男とともに「日本の民俗学」の創始者と言われている折口信夫が惚れ込んで、10 年通って「日本芸能史」を書き上げたという「新野の雪祭り」を追っかけた拙作。2 夜 3 日に及ぶ大きな祭りなで、本祭りの一部を取り上げて抜き書きを意味する「抄」を題名につけました。。試みに「ノンナレ」、「No　BGM}で編集したものの、司会者から指摘さた通り、これでは説明不足が免れないし、映像の盛り上がりも今ひとつ不満が残っていました。改めて再編集にチャレンジしたいと考えています。

７．晩秋の北条鉄道

江村一郎　　7分

北条鉄道は旧国鉄から分離した第 3 セクター、ご多分に漏れず経営難から運営に様々な工夫をこらしている。昨年 9 月の例会で紙本さんが取り上げられて一躍注目され、11 月には前田さん、今回は江村さんの登場となりました。それぞれ取り上げの視点は違いますが、江村さんは題名からして「晩秋」に焦点をおかれました。しかし思ったほど沢山の「秋の情景」には出会えなかったようです。この鉄道には魅力がありますので、来年は素晴らしい秋の情景に出会えるよう祈っています。

８．.滝山寺鬼祭り

紙本　勝　　12分50分

岡崎の山間部に伝わる修正会結願の祭りで、江戸時代は幕府の行事であったとか。

祭りは、大松明の登山行列や将軍の使者の到着を表す滝山寺学頭(住職)の行列にはじまり、午後 8 時 12 の大松明が、火の粉を振り撒きながら、本堂を巡り始めます。

よく整理さたナレーションが流れ、大松明の乱舞が徐々に大写しとなって、見ている人々を興奮の渦に巻き込むころ、主人公の鬼が登場して祭りはクライマックスを迎えます。素晴らしい作品に仕上がっています。余談ですが、火祭りの開始の前に登場する「田遊び」は、祭りの原始的な形で、ここから田楽、猿楽、狂言などの民俗芸能が進化しました。三河地方に今なお多く伝承されていているようです。いつの時代にかこの修正会に取り入れられて演じるようになったと思われます。火祭りには直接関係なさそうなので割愛されても。

９．天秤の里のひな祭り

進藤　信男　　10分50秒

「てんびん」は近江商人の象徴、そして近江商人を多く排出した町が、旧五個荘町、近江八幡市そして日野町でした。その中で旧五個荘町の伝統建造物群を地元の人たちは「てんびんの里」と名付けて町並みを保存しています。今回作者はこの町で開かれている「ひな人形めぐり」を辿りながら、近江商人文化を紹介されています。ただ、当初に紹介されている近江商人像は、江戸時代、京や江戸などに広く商圏を展開した近江八幡と日野商人の姿でありました。これに対して、五個荘町商人は早く発生したものの、商活動は地味で、全国や世界に飛躍するのは明治中期から戦前にかけてであったと言われています。、ナレーションの前後の筋書きをすこし整理されたら、すっきりするのではないかと考えました。

10．タナトウジャノ風習と儀式

山本　正夢　　10分50秒

いつも珍しい映像を見せて頂ける山本さん、今回はインドネシア・スラウェン島の先住少数民族、トラジャ族の風俗を取材されました。アニミズムを信奉し、外界とは隔絶して生きてきた彼らは、20 世紀初頭オランダ人宣教師によって扉を開かれ、1970 年頃から欧米諸国の観光コースに組み込まれて有名になったようですが、私には何もかも初耳のことばかりでした。

彼らは、独特の階層社会や親族関係を維

持し、文字の代わりに木彫り細工などのデザインで概念を伝達しているとインターネットは伝えますが、具体的にはどういうことなのかわかりません。、ただ何とも素晴らしい文化だと感心します。また、彼らは独特の「死」と「生」に対する観念を持ち、それが伝統的な儀式(葬儀)に反映されているとも伝えています。興味ある方は、インターネットをすぐ開けてみて下い。可成りの情報が流れています。そして元気な方は是非一度現地へ。

11. 若草山焼き

高瀬　辰雄　　8分20秒

奈良若草山の山焼きは、飛火野で行われる春日神社の大どんど(左義長)から始ります。そしてこの神火が若草山に運ばれて全山の枯れ芝生が焼き払われるという壮大な「どんど」です。作品では、綿密な構想で洩れなくその全貌が紹介されています。映像は俯瞰あり、遠景から中景そしてアップ、真っ暗闇の中の松明行列と一分の隙もありません。盛り沢山のスケジュールをこなして、どうして洩れなく撮影されたのか、感心しました。

ただ、大和に生まれ、「若草山の山焼きは興福寺と東大寺の境界争いから始った」という民話(今は否定されているようですが)で育った私には、画面一杯に広がるあの大花火はどうしても馴染めませんでした。かがり火の背景に上がる小さな花火だけにして頂けると、私個人としては大変うれしいのですが。

12. 京の川、鴨川の源流へ

森口　吉正　　10分

誰もが知っている鴨川。だが源流は何処か。私は考えもしませんでした。専ら名水、霊水を追っかけておられる作者は、今回この鴨川の源流に迫られました。出町柳で高野川と分かれて、上賀茂神社へ。そして北山杉が生い茂る山道を北上すると、禁裏御用水の水源を守ってきた寺院「志明院」(真言宗)に到着します。心なきカメラマンが禁を犯して撮影、映像を無断で公開されてから、楼門から先は撮影禁止とか。それでも作者は特に許可を得て、柵外から湧出する神聖な清水の姿を撮影、スクリーンに映し出して下さいました。

13. かげろい

関　剛　　5分40秒

人形の眼の大写し。そして顔色が微妙に変わる…。　やがて小さな流れに流し雛が…。タイトルは「かげろい」とルビ打たれて「陰炎」の文字が"炎"で点滅…。イントロとタイトルは終わります。作者の思いが実にこの 57 秒間に凝縮されている感じです。序曲が終わって、いよいよ緞帳が上がる感じと言って良いかも知れません。すこし映像を追ってみましょう。最初は柳川の雛祭りの町角のひな人形、やがて加太の淡島神社に供養のため奉納されたひな人形群、ここでの人形は過去に深い思い出を持っているからでしょうか、様々な表情を見せています。多分作者や観客の心象に何事か訴えようとしているのでしょう。

一方女の子が流すのは、鳥取の雛流しでしょうか。こちらは毎年新しくつくられて、女性の厄を祓う為に流されるとのことです。淡島神社の人形は、海に流され、最後は焼却されます。燃え上がる炎のなかで焼けただれて行く人形の姿をみていると、作品を取り上げた作者の「遣る瀬ない気持ち」が、いやと言うほどわかります。そして見る人それぞれの想いが、飛び交うことでしょう。この作品は、平成 19 年 5 月の OMC 例会で披露されたものの改作とか。のち第 47 回映像フェスティバルで上映された時のプロクララムには、「物怨を鎮め災いを流し、内に棲む魂と　情念は炎と化して天空に舞う」と作者のコメントがありました。

14. 山中温泉ぶらり

蟹江　利一　　9分

加賀温泉郷で一番歴史が古く、湯量も豊富、景色も抜群で、日本を代表する温泉の一つに数えられる山中温泉。先ずは女将が山中節で歓迎。「ぶらり旅」は、この山中節を背景に展開します。山中温泉総湯から温泉街風景、そしてこおろぎ橋から鶴仙橋と、雪が残る寒い時期で客の姿は少ないが、それだけしっとりした温泉の雰囲気が伺えます。その中で、「ぶらり旅」に馴染まないのが「森光子一座記念館」、これは削除して、こおろぎ橋を起点とする遊歩道や渓谷美を、数多く見せたかったと思いました。天候が悪かったので撮影し難くかったかも知れませんが。

[担当者からのお断り]加齢のせいか、この処とみに聴力の衰えを感ずるようになりました。例会での皆様の対話を聞き漏らしている可能性があります。その節は失礼の程ご容赦賜りますようお願い致します。